

## 持経宿・お堂(不動堂)の屋根葺き替え作業

◇実施日：平成27年07月30日(木) 晴時々曇

◇参加者：松本博至・(有)松本板金工業所、畑林秀味、川島 功。

計3名

お堂の屋根葺き替えに松本板金さんが、行って下さると前日昼前に畑林氏から連絡がある。沖崎氏はお客さんを大台ヶ原へ案内のため連絡つかず、林道ゲート鍵を借用したいとの事。

池郷林道通行は、通行可能を確認し池郷林道から持経宿へ入宿する事にする。

山路のサークルKで松本板金工業所の1屯トラック(助手席・畑林)と合流。松本さんのお兄さんは釘を踏んで怪我されたとのこと、弟さんが来て下さる。

弟の博至さんは、これまで行仙宿・平治宿の屋根等を仕上げて下さり、持経宿もお世話になるご縁になる。

林道崩箇所が完工し、路面が重機で均されており、白谷林道經由より約40分も早い9時前に到着。

早速、お堂のブルーシートを外し、下地補修後のルーフィング張り屋根にする。

波トタン屋根の葺き替えと思ったが、ガルバリウム・カラー鋼板横葺きとの事。アルミ・亜鉛・シリコン合金溶融メッキされたもので、従来のトタンに比べて約3倍長持ちするそうです、

軒先の鼻隠しに唐草(水切り)、破風板に添ってケラバ通し(水切り)が打たれる。

横葺き鋼板の働き幅は26cm、下端は下側に折り返し継ぎ手、上端は上側に折り返し継ぎ手がある。この下端と上端継ぎ手を引っ掛けてカラー鋼板を張って行く。



持経宿玄関



鋼板・工具積載トラック



軒先端に唐草設置

このお堂の野地板は、一般に垂木に野地板を張るが、垂木の上に胴縁を打ち野地板が張られており、ガルバリウム鋼板を止める釘は、約3cm空間下の垂木に止めるには長い釘が必要であり、垂木の位置を墨付けするが、滑り落ちない様に尻を着いて移動したりするので墨付け消え、垂木に釘を打つ為に何度か打ち直す。

ケラバ両端は、折り返し等の細工の関係から、鋼板両端を松本さんが止めてから、中間を畑林・川島が鋼板を止める。片屋根に鋼板8枚張ると棟近くまで張り終えたので小休止。



破風板にケラバ通し据付



鋼板つなぎ作業



唐草と鋼板の先端おさえ

休憩後、前屋根も同じ要領で12時過ぎ迄作業して、鋼板8枚を張り終え昼食とする。

11時半前に吉野から入峰の若者が着き、水が欲しいとのこと、水場迄5分位なので汲んで来る様に言う。中々戻らず心配していると戻り「遅いやないか、水流れとったか！」豊富に流れておりサッパリしたと・・・水浴びして来た様だ。

三叉路に在る改築廃材置場から薪小屋設置に使える垂木・筋交等を松本さんのトラックで運んでもらう為、昼食休憩を早めて川島捜しに行く。



棟に貫板を打ち棟包据付中

昼食後、ケラバ通しに鋼板を折り返す作業で、この作業は松本職人にお任せするしかない。この間、トラックを借り、畑氏運転し三叉路から使えそうな廃材を運搬する。

ケラバ通し・唐草に折り曲げた鋼板は、「おさえ」という工具で、隙間が無い様にきっちり押さへこむ。

屋根棟の両サイドに貫板が打たれ、その上に棟包が被され、貫板にステンレス釘で畑林・川島が止める。その後、棟の両端に飾り金具を付けて下さり、15時前に屋根葺き替え作業は終了した。

見違える出来栄えのお堂の屋根になった。尚。屋根裏の野地板・垂木隠しは、化粧ベニヤか残材の相シヤクリ野地板を張る作業が未だ残っている。



お堂屋根・ガルバリウム・カラー鋼板横葺き替え完了！

### 行動タイム

新宮 7:00→8:10 池郷林道口→8:50 持経宿→11:05 休憩 11:15→  
12:10 昼食 12:50→14:50 屋根葺き替え終了・休憩→持経宿 15:25  
→16:05 池原スポーツ公園宿 16:10→17:30 新宮。

(記 川島)